

平成27年度 教育事業

第6回 チャレンジカヌーツーリング ～総勢100艇を超える日本最大級のカヌーイベント～

大洲盆地を蛇行しながら流れる清流「肱川」の下流約10kmを大洲市八多喜をスタートし、河口まで140艇のカヌーで一斉に川下りをしました。自然溢れる肱川の景色を楽しみながら、色彩鮮やかなカヌーの群れが流れる様子はとても壮観なものでした。ゴール後には、これからも美しい肱川であり続けて欲しいという願いを込め、参加者全員で河口のゴミ拾いに汗を流しました。

1 事業実施までの経緯

国立大洲青少年交流の家では、昭和51年度より肱川を利用したカヌー研修を導入し、多くの利用者にカヌー体験の機会を提供してきた。通常、研修支援プログラムとしてのカヌー研修は、肱川中流の川幅20メートル程度で流れも緩やかな200メートル程度の場所を「カヌー研修場」として設定し、実施している。希望に応じて上流からのカヌーツーリングも研修支援プログラムや事業として提供してきたが、安全管理の観点から対象は高校生以上であり、平水で6時間のカヌー実技研修と講義の受講を義務づけていることから、一般の利用者が気軽に体験することは難しいのが現状である。そこで、実施場所や実施時期等を考慮し、気軽に多くの方にカヌー体験の楽しさやカヌーをとおして自然とふれあうことのすばらしさを身近に感じていただく場と機会を設定した。

本事業では、小学5年生の子供たちからツーリングできるようにするため、より安全性の高い、肱川下流域をツーリングの場所と設定した。また、事前にカヌー経験の有無を確認し、未経験者にはより安心して事業に参加していただくために、事前の実技研修に参加できるように計画した。さらに、2017年に行われるえひめ国体において、大洲市がカヌー競技の会場となることから、地域全体でカヌーを盛り上げていくために、大洲市や大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所にもご協力いただき、実行委員会を設けて事業を企画運営することとした。

本事業は5年前から子どもゆめ基金体験の風リレーションシップ事業として、また昨年度からは教育事業として実施し、今年度で6回目の開催となった。

2 ねらい

10kmのカヌーツーリングを完漕することで、達成感や自然のすばらしさ、カヌーを漕艇する楽しさを感じるとともに、地域の活性化や清流「肱川」の美化を図る。また、カヌーによる体験活動の普及を図る。

平成27年度 国立大洲青少年交流の家 教育事業

第6回 チャレンジカヌーツーリング

体験の風をおこそう

開催日 平成27年 9月27日(日) 地水(ダム放流)の場合は、10月11日(日)に延期します。

対象 中高生25名、一般25名、小学5・6年生親子(2人1組)25組

会場 大洲市八多喜福園大橋付近～長浜河口

参加費 500円(軽食・飲み物代・保険代)

申込締切 平成27年 9月14日(月)17時まで ホームページよりお申し込みください。

目指せ赤橋！ 日本唯一のバスキュール(漕ね上げ式)の観覧橋

国立大洲青少年交流の家 主催

協賛 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所、大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会、NPO 公益財団、おしどり、FM 大洲

3 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

4 共催 大洲市・大洲市教育委員会・大洲市カヌー協会

5 後援 国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所・愛媛県教育委員会
(株)愛媛新聞社・(株)あいテレビ・(株)FM愛媛

6 協力 四国キャンティーン株式会社・介護老人保健施設長浜ひまわり・大和公民館

7 期日 平成27年9月27日(日)

8 場所 愛媛県大洲市肱川(スタート…八多喜祇園大橋 ゴール…肱川河口 約10km)

9 対象 小学5・6年生親子(25組)・中高生(25名)・一般(25名)

10 参加人数 114名 (募集人数100名)

11 参加費 500円(軽食・飲み物代・保険代)

12 講師 国立大洲青少年交流の家職員
国立大洲青少年交流の家研修指導員
大洲市カヌー協会会員

13 日程

8:30	10:30	11:00	13:30	14:00	14:20
受付	開会行事	肱川河口までツーリング (適宜トイレ休憩)		清掃活動	閉会行事 解散

14 活動内容

参加者の多くは自家用車等でゴール地点近くにある長浜環境緑地公園に集合し、シャトルバスに乗り込んでスタート地点である八多喜祇園大橋上流の開会式会場へ移動した。到着後に受付を済ませた参加者は、各自ヘルメットやライフジャケット、カヌー、パドルを受け取り、ガムテープを使った名札に自分の名前を記名して用具にはるなどの準備を行った。全参加者を小学生親子3、中高生親子1、一般1の5つのグループに班編成した。準備を終えた参加者はそれぞれのグループリーダーとなるスタッフに誘導され、自己紹介をしたり、漕艇中の注意事項を確認したりしながら開会式までの時間を過ごした。



開会式には、大洲市長・清水裕氏、大洲市カヌー協会理事長・島村弘幸氏にごあいさついただき、最後に主催者である国立大洲青少年交流の家所長・佐藤悟があいさつを述べた。また、厚生労働大臣・塩崎恭久氏、愛媛県知事・中村時広氏から参加者へ向けていただいたメッセージも紹介した。塩崎氏からは「本大会が地域活性、肱川の美化に繋がることを期待する」ことが、中村氏からは「カヌーの楽しさや清流『肱川』の自然を満喫し、『愛顔（えがお）』あふれる一日になることを心から願う」ことがメッセージとして伝えられた。閉式後、各グループ毎にスタート前の最終確認を行い、出発の準備を行った。



開会式後、ピストルの音を合図に参加者・スタッフ総勢140艇のカヌーが一斉にスタートした。小学5・6年生の親子の班を先頭に、中高生親子、一般の順でツーリングを進めた。参加者はそれぞれ各自のペースでカヌーを漕艇し、緩やかな流れの肱川水面から眺める景色を楽しんだ。当日は日差しもやわらかく、風も穏やかであったため、心地よく下り進むことができた。100艇を超えるカヌーが川幅いっぱい広がる様子は壮観であった。



未経験者や久しぶりに乗艇する参加者の中には、なかなか思うようにカヌーを操れない様子も見られたが、スタッフ等のアドバイス、励ましを受けて少しずつ上達する姿が見られた。中間地点となる白滝橋付近に達したころには、ほとんどの参加者が自らの思う方向にカヌーを漕ぎ進められるようになり、秋空のものとカヌーツーリングを満喫する姿が見られた。



大和橋では、参加者全員で長めの休憩をとった。休憩ポイントに到着した参加者は軽食のおにぎりとバナナ、協力団体より提供していただいた飲み物を受け取り、エネルギーを補給した。休憩中には2km前方に見えるゴール地点の長浜大橋について、昨年12月に国の重要文化財に指定されたことを参加者に伝えた。その後、実際に橋の開閉する様子が見られ、参加者からは歓声が上がった。トイレ休憩等を済ませた後、13時に再スタートを行った。ここからはグループの枠を取り払い、参加者各自が各々のペースでゴールに向けて一斉にスタートした。参加者は最後の力をふりしぼって、我こそは一番にとゴールを目指し、約10kmの距離を漕ぎきった。



ゴールに到着した参加者は、カヌーや道具の片づけを行った。片づけを終えた参加者は、ゴール地点周辺の海岸清掃活動も行った。海岸には漂流ごみが多く、燃やすごみと燃やさないごみに分別しながら回収した。参加者は今日一日のカヌーツーリングの様子を口にしなが、熱心に海岸清掃に取り組んだ。多くの参加者が一斉に清掃活動を行ったおかげで、少ない時間ではあったものの、大量のごみが回収された。参加者も気持ちのよい表情で清掃活動を終えることができた。



閉会式では参加者を代表して、中・高生の部に参加された香川県高松市の土居さんに、交流の家所長より完漕証を手渡した。他の参加者も閉会式後に各班のリーダーから完漕証を受け取った。それぞれの班で参加者相互に称賛の拍手が起こった。閉会式後には全員で記念撮影を行った。撮影時には再度、長浜大橋の開閉があり、肱川下流域でのカヌーのロングツーリングにチャレンジしたことを記念する思い出の一枚となった。



15 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：85.9% *やや満足：14.1% *やや不満：0.0% *不満：0.0%

- すべてにおいて大満足です。サポートも万全で、楽しく家族で参加できました。
- 今年は風も少なく、楽しかった。昼食もあり、よかったです。
- 準備等、大変だったと思います。ぜひ続けてほしいです。ありがとうございました。
- 年に数回は同じようなイベントを実施してほしいです。アナウンスしていただければ、参加したいと思います。
- 初めてでしたが、スタッフのみなさまのおかげで安全に楽しめました。
- 親子で参加をさせていただきました。ありがとうございます。

16 成果と課題

事業の実施にあたり、昨年度末に当所と大洲市、国土交通省四国地方整備局大洲河川国道事務所、大洲市教育委員会、大洲市カヌー協会で行実委員会を開き計画を立てた。その際潮の満ち引きによる日時設定、時間管理、救助艇の配備、ヘルメット、ライフジャケットの着用、休憩場所の設置（栄養補給）、コース周辺の施設や漁協等に協力を依頼し、万全な安全体制で実施することができた。また、当日は天候にも恵まれ穏やかな気象条件の下で実施することができた。

今回は昨年度の課題を踏まえ、実施を9月下旬の日曜日に設定した。その結果、中・高校生の参加者が増加した。開催時期については、潮の干満等を考慮に入れながら、できる限り小中高の運動会や体育祭実施日を避け設定することが必要であるとする。開催時期およびコース設定を検討し、より多くの子どもたちが参加できるように配慮していく必要がある。

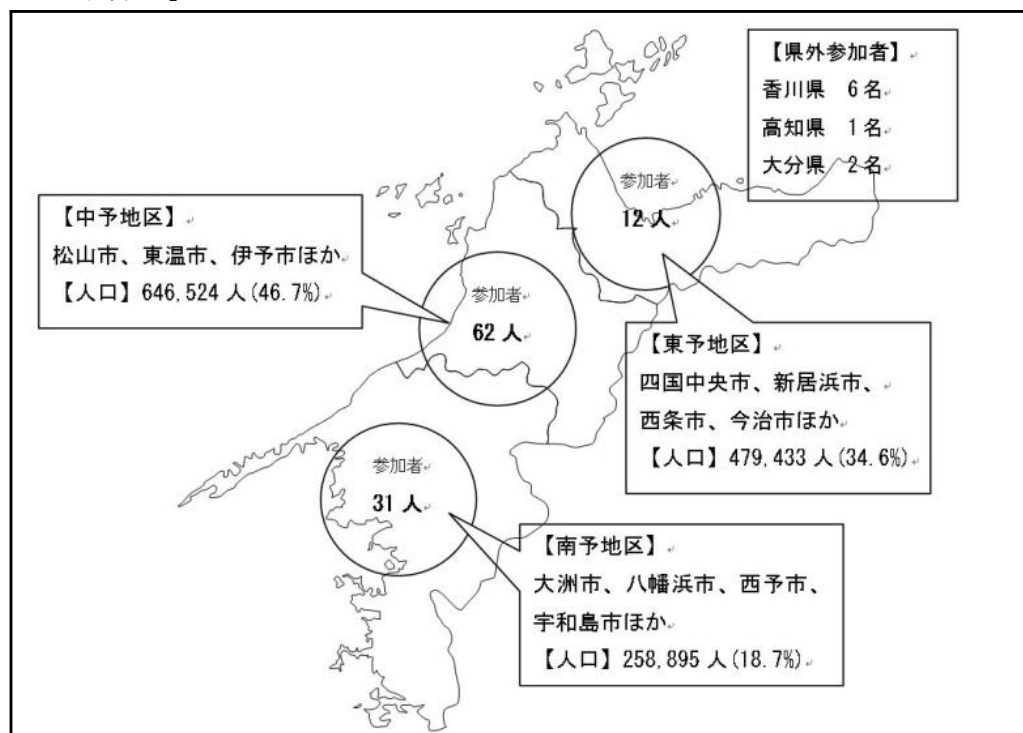
また、今年度の応募傾向として中学生・高校生の参加者に対してその保護者が一般の部で申し込みをされるケースが多く見られた。そこで当日は「中・高生親子」というグループ編成を行った。小学生の親子に関しては参加児童の安全面に配慮しての募集形態をとっているが、中学生・高校生に関しては親子での応募が半数（参加した中学生・高校生20名に対し、単独での参加者は11名）を占めた。次年度以降の募集方法について、一考の余地があるとする。

漕艇技術の未熟な参加者への対応についても課題を残した。事業当日を前に、小学生を中心とした事前練習会を2回実施した。しかし、当日のスタート直後うまくカヌーを操れない参加者が各班とも数名ずつ存在した。漕艇技術の安定化を図るための方策を検討する必要がある。

今後も肱川を使ったカヌーツーリングを継続して行うことで、カヌーを通じた自然体験活動の推進を図ることができるものとする。その際、大洲市や国土交通省、愛媛県、大洲市カヌー協会、肱川漁業共同組合等、他団体と連携することで安全かつスムーズに事業運営ができるものとする。「カヌーの大洲」を謳う当交流の家の看板事業として、今後も発展的な企画の実施を検討していきたい。

（担当：企画指導専門職 森分 洋樹）

【愛媛県内の参加者分布】



※人口は 2015 年 10 月 1 日現在の推計値